

2017年度第1回日本映像学会メディアアート研究会

9月23日(土) 15:30より \*中部支部研究会と同日開催。

16:30頃~ 招待講演:阿部一直(キュレーター)

「メディアアートにおけるインターフェイスの役割と未来について」

愛知県立芸術大学芸術講座・中部支部研究会招待講演

場所:愛知県立芸術大学新講義棟講義室



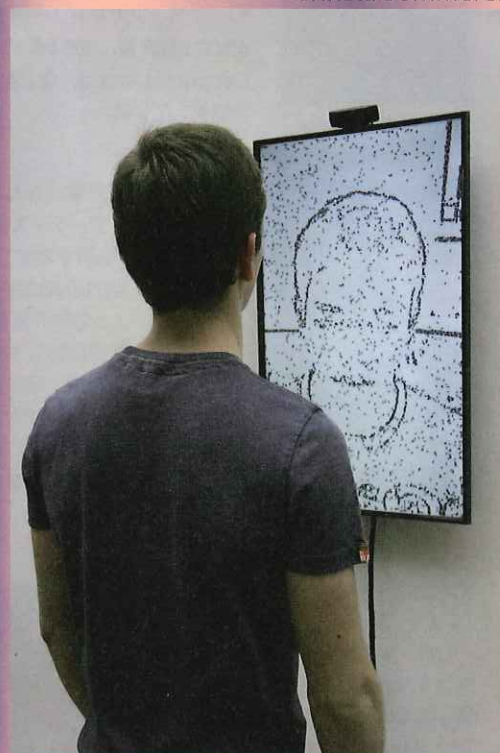
阿部一直

フリー・キュレーター、プロデューサー。

1960年長野市生まれ。東京芸術大学美術学部芸術学科卒業。1990~2001年キャノン株式会社「アートラボ」専任キュレーター。2003年より、磯崎新設計になる山口情報芸術センター[YCAM]のチーフ・キュレーターおよびアーティストック・ディレクターとしてディレクション/総合監修を担当。2012~16年副館長兼任。主なオリジナル企画に坂本龍一+高谷史郎「LIFE-fluid, invisible, inaudible...」、池田亮司「testpattern」「supersymmetry」など。2006年ベルリン

「transmediale award 06」国際審査員。2009年台北「第4回デジタルアートフェスティバル台北/デジタルアートアワーズ」国際審査員。2014年~16年文化庁芸術選奨メディア芸術部門選考審査員。2017年光州(クアンジュ)ACC Festival ゲストディレクター。

Portrait on the Fly  
© 2015, Laurent Mignonneau and  
Christa Sommerer



日本映像学会メディアアート研究会企画 一映像とメディアアート展

# インターフェイスとしての映像と身体

日時:2017年9月9日(土)ー9月24日(日) 10:30ー16:30 月曜休館

場所:愛知県立芸術大学芸術資料館

展示作家:

ロラン・ミニョノー&クリスタ・ソムラー Laurent Mignonneau & Christa Sommerer  
(リンツ美術工芸大学メディア研究科教授 University of Art and Design, Linz, Austria)

伊藤 明倫(メディアアーティスト) + 高橋 一誠(筑波大学研究員)

大泉 和文(中京大学 工学部メディア工学科教授)

金井 学(アーティスト)

鈴木 浩之(金沢美術工芸大学美術科准教授) + 大木 真人(宇宙航空研究開発機構研究員)

関口 敦仁(愛知県立芸術大学美術学部教授)

村上 泰介(愛知淑徳大学創造表現学部准教授)





ロラン・ミニョノーとクリスタ・ソムラー  
Laurent Mignonneau & Christa Sommerer

国際的に有名なメディアアーティスト、インタラクティブアートの実践者。米国と日本で10年にわたり研究と教育を行った後、オーストリアのリンツ美術工芸大学に教授として着任し、インタフェースカルチャー部門を開設した。

二人は米国ケンブリッジのMIT CAV、米国イリノイ州シャンペインアーバナのベックマン研究所、東京のNTTインターコミュニケーションセンターの客員研究員、デンマークのオールボー大学のオベル客員教授、筑波大学の客員教授などを歴任、ロラン・ミニョノーはパリ第8大学のシャイア国際客員教授も歴任している。

これまで約30のインタラクティブな作品を制作し、スペインのマドリードで行われた2016年のARCO BEEP賞、1994年のGolden Nica Prix Ars Electronica Award、などをはじめとして数々の賞を受賞している。



伊藤明倫+高橋一誠 (いとう あきひと+たかはし いっせい)  
2014年からコラボレーションを開始する。  
2015年 Siggraph Asia 2015、Art Papers、神戸  
2016年 ISEA 2016、Artist Talk、香港  
2016年 CURRENTS 2016、Exhibition、アメリカ  
2016年 日本映像学会中部支部研究会、研究発表、名古屋  
2017年 UNESCO Creative Cities of design、Exhibition、フランス



金井学 (かない まなぶ)  
アーティスト。1983年東京生まれ。「芸術を為す」という行為自体を、学際的研究の視点から問い直すことによって制作活動を展開している。近年は技術哲学の観点から芸術実践を時間(現前性)を編成する技術として位置付けつつ「トランス・プレゼンツ」をキーワードに芸術実践の方法論を探究している。

大泉和文 (おおいずみ かずみ)  
1993年、筑波大学大学院修士課程 芸術研究科 総合造形 修了。中央大学工学部メディア工学科教授。博士(メディア科学)。  
ドローイング・マシンおよびインタラクティブ・インスタレーション作品を制作してきた。また、20世紀初頭のアン＝ビルト建築の三次元CGによる再現を行う。  
主な著書に『コンピュータ・アートの創生—CTGの軌跡と思想 1969-1699』(NTT出版、2015年)。



鈴木浩之+大木真人 (すずきひろし+おおきまさと)

「だいちの星座」は、鈴木浩之・大木真人らが、2014年種子島宇宙芸術祭イベント「こども宇宙芸術教室2014」、茨城県での「だいちの星座プロジェクト—つくば座・もりや座—」を経て、石川県金沢市、茨城県北地域、国外へと展開中のアートプロジェクト。

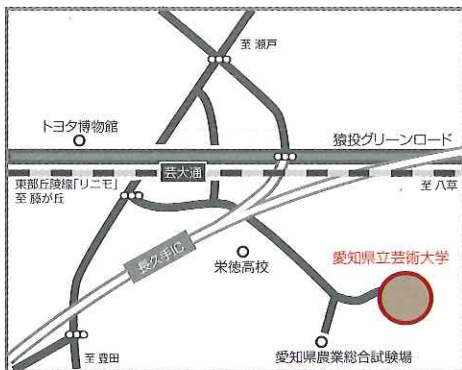


鈴木はミラノ国立美術学院ブレラへの留学を経て2004年に帰国後、2010年より地球観測衛星を利用して地上に「星空」を描くプロジェクトを行っている。2010年文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業採択。大木は宇宙航空研究開発機構地球観測研究センターにて、宇宙からのリモートセンシング技術およびそれらの教育や芸術などへの応用について研究を行っている。

村上泰介 (むらかみ たいすけ)  
1969年京都府京都市生まれ、1999年岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー・アートアンドメディアラボ卒業、2013年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程 博士号取得。  
受賞：2002年第5回文化庁メディア芸術祭デジタルアートインタラクティブ部門 優秀賞。展覧会：2017年 the UNESCO Creative Cities of design (CENTRE DES ARTS / アンギャン=レ=バン、フランス)、2016年 ISEA2016 Artist Talk (City University of Hong Kong / 九龍、香港)、2015年 Siggraph Asia 2015 Emerging Technologies(神戸国際展示場 / 神戸) など。



関口敦仁 (せきぐち あつひと)  
1958年東京生まれ、1983年東京芸術大学美術研究科修了後、絵画・インスタレーション・メディアを中心とした作家活動を行い、1996年より情報科学芸術大学院大学教授を経て、2013年4月より愛知県立芸術大学デザイン工芸学科教授。  
身体情報を利用した「Connected Re-Body」2000年、金華山島に滞在して制作した「景観シリーズ」2004-7年など、自己の身体知覚と場所性をテーマにした作品の発表や地理情報を活用した歴史情報コンテンツの研究などを行なっている。



交通案内：

- 名古屋方面から  
地下鉄東山線  
「藤が丘」駅下車  
東部丘陵線(リニモ)  
「芸大通」駅  
下車徒歩約10分
- 豊田・瀬戸方面から  
愛知環状鉄道  
「八草」駅下車、  
東部丘陵線(リニモ)  
「芸大通」駅  
下車徒歩約10分